

■ 講談師・大阪ゆかりの宮司らとともに「なにわ大阪」の文化を語る ■ 「なにわ大阪研究センター」開設記念シンポジウムを開催

【日時】7月16日(土) 13:30~16:00 【場所】千里山キャンパス 100周年記念会館ホール

関西大学ではこのたび、創立130周年事業の一環で、大阪文化の新研究拠点として今年4月に設置した「なにわ大阪研究センター」の開設記念シンポジウムを7月16日(土)13:30より千里山キャンパスにて開催します。

きょくどうなんかい

当日は2部構成で、第1部では講談師の旭堂南海 師による講談「関西大学物語」を披露いただきます。本講談は旭堂南海師が今回のシンポジウムのために特別に制作していただいた本学の歴史をテーマにしたオリジナルの演目です。

ほりいよしたね

第2部では、公益財団法人 関西・大阪 21世紀協会理事長を務める堀井良殷 氏による基調講演「なにわ大阪再発見」が行われ、大阪が誇る文化の魅力を語っていただきます。さらに、住吉大社や大阪天満宮の宮司らを交えて、「なにわ大阪研究センターへの期待」をテーマにパネルディスカッションを実施し、今後の本センターにおける研究の方向性や社会貢献の在り方などについて意見交換を行います。

本センターでは、大阪に生まれ育まれてきた大学としての社会的使命と期待を背に、約10年にわたって集積してきた豊富な文化遺産研究・地域連携の実績を結集し、大阪文化を次世代に継承・発展させることを目的として、研究活動の推進および知的資源の還元に努めていきます。

つきましてはご多忙の折恐縮ですが、周知・当日の取材についてご検討をよろしくお願い申し上げます。

記

【日 時】 7月16日(土) 13:30~16:00 <開場 13:00>

〈第1部〉13:30~14:10 講 談 「関西大学物語」：旭堂 南海 師（講談師）

〈第2部〉14:20~14:50 基調講演「なにわ大阪再発見」

：堀井 良殷 氏（公益財団法人 関西・21世紀協会理事長）

15:00~15:50 パネルディスカッション「なにわ大阪研究センターへの期待」：

<進 行> 藪田 貫（関西大学名誉教授）

<パネリスト> 旭堂 南海 師、堀井 良殷 氏、寺井 種伯 氏（大阪天満宮宮司）、
高井 道弘 氏（住吉大社宮司）、与謝野 有紀（なにわ大阪研究センター長）、
黒田 一充（なにわ大阪研究センター・副センター長）

15:50~16:00 閉会挨拶：与謝野 有紀

【場 所】 関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館ホール

吹田市山手町 3-3-35（阪急「関大前」駅下車 南出口から徒歩5分）

【対 象】 どなたでも可（事前申込要） 【定員】 400名 【参加費】 無 料

【申込方法】 関西大学なにわ大阪研究センター（TEL：06-6368-1329）までお電話にてお申し込み

【そ の 他】 会場入口に「豊臣期大坂図屏風」および「浪花名所図屏風」のレプリカを展示します。

以 上

※ご取材を希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。



■ 「なにわ大阪」とは

「なにわ大阪」には大阪の歴史・文化遺産という過去のストックと、常に未来に向けて発信する現在のフローの両者が含意されている。大阪を冠する機構・団体、あるいは「なにわ」単独の呼称もあるが、「なにわ大阪」とした表現は希少性が高い。このためセンター名称にこの言葉を使用している。

■ 関西大学なにわ大阪研究センターの前身

2005年度以降10年間にわたって文部科学省から採択された3つのセンター〈なにわ・大阪文化遺産学研究センター〈2005.4～2010.3〉・大阪都市遺産研究センター〈2010.4～2015.3〉・社会的信頼システム創生センター（通称「STEP」）〈2010.4～2015.3〉〉をはじめとする長年の文化遺産研究・地域連携活動の成果が、本センターの礎となっている。いずれも文部科学省指定事業に採択されたプロジェクトの研究拠点である。

■ 登壇者・パネリスト プロフィール

- ・旭堂 南海 師（きょくどう なんかい）：講師

1964年兵庫県生まれ。大阪大学文学部在学中に三代目旭堂南稜に入門。古典の大作「難波戦記」を全40巻に収録（今年7月に完成）するほか、「広岡浅子物語」など新作を多数創作している。



- ・堀井 良殷 氏（ほりい よしたね）：関西・大阪21世紀協会理事長
1936年奈良県生まれ。東京大学卒業。1958年NHKに入社。NHK大阪放送局長、理事・営業総局長、放送大学理事などを経て2001年より現職。「水の都大阪」運動の提案・推進にあたる。

- ・寺井 種伯 氏（てらい たねのり）：大阪天満宮宮司

1933年大阪市生まれ。関西学院大学、國學院大學神道専攻科卒業。明治神宮、大阪天満宮、四条畷神社を経て、1989年大阪天満宮第57代宮司。國學院大學評議員会議長、大阪府神社庁庁長、神社本庁常務理事などを歴任。



- ・高井 道弘 氏（たかい みちひろ）：住吉大社宮司
1939年大阪市住吉区生まれ。神宮皇學館卒業。靖國神社を経て、1966年から住吉大社権禰宜。2013年宮司に就任。御鎮座1800年記念大祭や式年遷宮などの行事に関わった。

- ・藪田 貫（やぶた ゆたか）：関西大学名誉教授

1948年大阪生まれ。関西大学在職中、なにわ大阪文化遺産学研究センター・大阪都市遺産研究センターの事業に携わり、2015年3月定年退職。退職後、なにわ大阪研究センター特別顧問としてセンターの設立に携わる。現在、なにわ大阪研究センター非常勤研究員。



- ・与謝野 有紀（よさの ありのり）：社会学部教授、なにわ大阪研究センター長
東京都生まれ。文部科学省の助成を受けたSTEPのセンター長として、地域活性化に対する社会的信頼の機能を実践的に明らかにする研究を展開した。膨大な数のプロジェクトを統括し、安全安心や過疎化が進む地方のあり方など、社会的課題の解決に全精力をもって取り組む。

- ・黒田 一充（くろだ かずみつ）：文学部教授、なにわ大阪研究センター副センター長
専門は日本民俗学、庶民信仰史。特に日本各地の祭祀や民俗信仰を中心に、儀礼や組織を歴史的な視点から研究している。祭りや民俗行事の現地調査とともに、地元の記録や文書類を使った分析を試みている。

